

平成24年度 タウンミーティング

◆矢野口自治会館(矢野口地区) 平成24年10月9日(火曜日)

質問内容	回答
健康プラザの利用時間について、2時間という利用時間は短いので15分でも30分でもよいので利用時間を延ばすことはできないのか。	市役所は健康プラザのようなフィットネスクラブの運営についてのノウハウを持っていないので、ニーズに対する柔軟な対応ができる民間企業に運営を委託している(指定管理者制度)。採算性を重視した民間ならではの料金設定・時間設定となっているので、サービスの原価とかけ離れた料金設定にはなっていない。ただ、料金や時間に関しての様々な意見はいただいているので、料金の設定など一定期間をおいた後見直しを考えたい。しかし、目下のところ、値段を下げてサービスを低下させるよりは、現在の時間・料金設定で運営を続け、利用者を増やし、採算性を向上させ、たとえば送迎サービスを付けるなど、サービスの向上に向けていきたい。
市立病院の医師不足について、医師の確保をどのように考えているのか。	内科以外の部分は医師不足の事実はない。内科については、最も少ない状態で常勤医が5人までに減ってしまった。外来・救急外来の診療については、常勤医以外を含めての対応しているので従来どおり行っている。しかし、病棟対応については常勤医がいないと難しいので、入院について他の病院を紹介している。市民の皆さんにはご迷惑をおかけした。医師の確保については、関連病院の慶応義塾大学病院等に足しげく通い、医師の確保に努めた結果、8月に、また10月に3人、来年度からはさらに3から4人の常勤医師が確保できる予定。杏林大学病院・聖マリアンナ医科大学病院など、今まで以上に関連病院との連携を強化していきたい。市長としての業務の中でも医師確保は最優先で取り組みたい。
今後稲城を含めた多摩地区に起こりうる震災の規模や被害想定をどう考えているのか。	現在、東京都から発表されている被害想定は、あくまでコンピューターではじき出された予測値に過ぎない。稲城市は高層ビルがあるわけではない、人口密度が高いわけではない(地区によって事情は異なるが)、概ね新耐震基準に基づいて建築されている。大きな被害はないだろうと予測される(あくまで地区のデータを基にした予測値ではあるが)。
防災行政無線について、前市長は廃止の意向であったが、その後の経過は。	防災行政無線の廃止は考えていない。ただ、防災行政無線で全市民へ情報を伝達できるとは思っていないので、改良をしていく予定である。まず、音声を人の声から合成音声に変えていく。また、放送のデジタル化。億単位の予算がかかるが、第四期長期総合計画の中で、なるべく早めに。それに伴い、自動の受信機(防災ラジオ)を導入。市からの補助で安価で購入できるようにする。また、来年度の予算で、放送内容を電話で確認できる自動応答システムの導入をしたい。放送内容は稲城市メール配信システムで配信するので、ぜひ登録いただきたい。また、エリアメールで稲城市の情報を配信できるようにした。大災害時、各避難所にはデジタル無線機、防災電話を配置している。

<p>市立病院の診察について。①健診センターで受けた人間ドックの健診結果を、市立病院の外来受診につなげてほしい。</p> <p>②市立病院の外来受付について 自動再来受付機での受付が、受診後1か月以内しか受け付けられないことが不便である。健康保険証の関係でそうなのだが、受付を健康保険証の確認のために制限するのはおかしいのではないのか。</p>	<p>①健診センターへ、やり方については意見を伝える。</p> <p>②再来受付機は、初診の受付ではない方のための機械受付であり、1か月を越えるとあくまで初診扱いとなるので、自動受付はできない。</p>
<p>三沢川からランド通りに抜けるあたりの公園を自転車で通り抜ける際に、柵や段差があり、非常に危険である。人の導線に合わせるよう、道を改良してほしい。</p>	<p>指摘の部分はもとは植栽であり、自転車や人は通行してはいけない場所。自転車で通行する場合は左のゲートを通っていただきたい。</p>
<p>稲城市の福祉について、高齢化が進んでいる中で、お年寄りが稲城市を終の棲家にできるような、長期療養施設をつくる予定はあるのか。市でそういった施設を持つ計画はあるのか。</p>	<p>療養型病床の話。医療機関の役割分担。すべての医療サービスを市の行政サービスとしてまかなうのは難しい。稲城市立病院ができる部分はしっかりやっていく。急性期医療は市立病院、その後の療養は周辺の療養型病床を持つ施設につなぐ。</p> <p>ただ、市立病院でも療養型の病床を増やし、稼働率を上げていくことは、今後可能性として検討していかなければならない(新たな施設をつくることは難しい)。</p>
<p>矢野口地区の公園について、最近地区にマンションなどが増えて、小さい子どもも増えてきている。小さい子どもが遊べるような公園が梨の道の入口にできるのはいつになるのか。</p>	<p>榎戸の区画整理事業が進めば、吉方公園が1.5倍くらいの大きさになる。梨の道の出口の公園は、かなり広い公園になる。この公園に関しては、比較的早期に完成予定である。区画整理の進捗状況は個々の地権者とご理解と市の予算が関わる。区画整理内の緑地はかなり多く取る予定である。</p>
<p>①救急車で搬送が遠くになってしまうことがあるが、近くの川崎などと提携を結んで、搬送できないのか。</p> <p>②保育園や学童クラブの待機児童の解消について、どのように今後進めていくのか。</p>	<p>①救急搬送は、救急度に応じて一次・二次・三次と搬送先が決まっている。基本的に医療機関には往診義務があり、理論的にはどこでも受診可能。しかし、当直の医師で対応できない場合や医療機関に医師がいない場合など、近くで対応できない場合がどうしても出てきてしまう。ただ、かかりつけがあるなど患者さんのご希望には添えるように、様々な事情を考慮した上で、その時に最適な医療機関へ搬送している。</p> <p>②保育園に関しては、現在ある施設の増築・改築で定員増を図っている。また、南山に認可保育園を一つ新設する。第2保育園を建て替え、定員増を図る。あわせて、認証保育所をよみうりランド駅前に新設する予定。一方、学童クラブの待機児童に関しては、矢野口地区が一番深刻。今年度は、補正予算で一時的に対応。来年度、7小学区に民間の学童クラブを新設予定。また、青葉幼稚園で独自の学童を始める計画がある。学童クラブについては拡充しやすいので、空き施設等がみつきり、必要があれば増やしていきたい。</p>